

(千種区 18.18Km²)

前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	77	166	△ 89	937	817	120

注) 学区別の世帯数と人口は、令和5年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の人口密度の概況

今回は令和7年10月1日現在の各区と千種区の各学区の人口密度を他区と比較しながらみていきます。

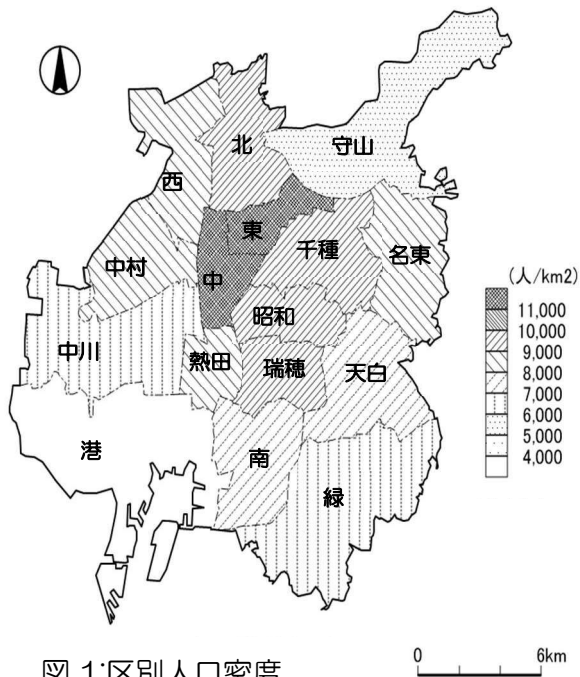


図 1: 区別人口密度
(令和7年10月1日現在)

令和7年10月1日現在の区別人口密度を見てみると(図1)、東区が11,588人/km²と最も高く、中区11,364人/km²、昭和区9,981人/km²、瑞穂区9,680人/km²、北区9,183人/km²、と続き、千種区は9,125人/km²で6番目でした。

人口密度が低いほうから見てみると、港区が3,048人/km²で最も低く、守山区5,170人/km²、緑区6,542人/km²と続きます。

全体的に見てみると、名古屋市の中心部は人口密度が高く、郊外は低い傾向が見られます。



図 2: 千種区の学区別人口密度
(令和7年10月1日現在)

続いて、千種区の人口密度を見ていきます。令和7年10月1日現在の千種区の学区別人口密度が高い順に春岡(15,552人/km²)、大和(14,316人/km²)、内山(13,560人/km²)、高見(12,824人/km²)の順となっています。

人口密度が低いほうから見てみると星ヶ丘(3,194人/km²)、見付(5,415人/km²)、東山(7,835人/km²)、上野(8,403人/km²)、千代田橋(8,469人/km²)の順となっています。

区の西側の学区が高いのに対して、東山公園や名古屋大学を含む星ヶ丘学区や見付学区が低くなっています。